



from Frankfurt

ベルリン空港物語

2020年11月8日、「ベルリン・テーゲル空港」が70年以上の役目を終えて閉鎖しました。この空港は東西冷戦下の1948年にソ連によるベルリン封鎖によって陸の孤島となった当時の西ベルリンに対して西側諸国が支援物資を送るため、わずかに数週間の突貫工事で建設されます。当初は軍需中心でしたが、1960年の民間機の定期就航開始以降は、西ベルリンの人々にとって西側とつながる数少ない玄関口の役割を果たしてきました。1990年に東西ドイツが統一され、ベルリンが新たな首都となってからは、ドイツの首都の玄関口として活躍します。特徴的な六角形のデザインに加え、ベルリン中心街から約11kmという利便性の良さもあり、長年多くの人々に愛されてきました。

もっとも、首都の空港としては手狭だったこともあり、統一後、新たに「ベルリン・ブランデンブルク国際空港」の建設が始まります。この空港は、当初計画では2011年に開港予定だったのですが、工事不良な

どから計画が遅れに遅れ、2020年10月末にようやく開港にこぎつけました。

こうして役目を終えたテーゲル空港は、この約1週間後に惜しまれつつ閉鎖したわけですが、ベルリン市のミュラー市長がスピーチでいささか感傷的に「テーゲルはわれわれベルリン人にとって、まさに世界への玄関口だった」と述べるように、その長い歴史の中で、数多くの人々の物語を見つめてきました。

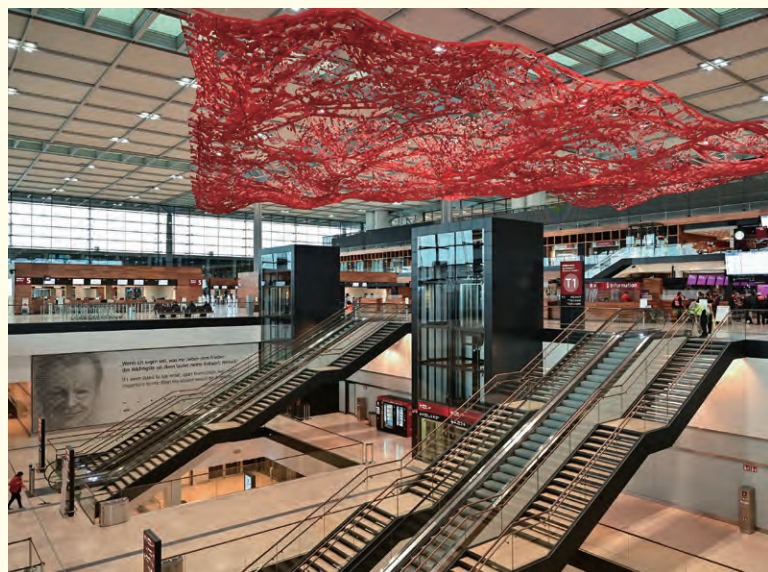
残念なことに新型コロナウイルスの感染拡大と重なったため、新空港の門出は派手なセレモニーのない寂しいものとなってしまいました。しかし、東西統一からちょうど30周年という節目にオープンすることとなった新空港は、躍動するドイツの首都の新たな玄関口として、これからますます多くの人々を迎え入れ、送り出し、そして新たな物語を紡ぐことでしょう。

(日本銀行フランクフルト事務所)

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



特徴的な六角形のデザインのベルリン・テーゲル空港
(写真提供：dpa-Zentralbild/DPA/ 共同通信イメージズ)



新たに開港したベルリン・ブランデンブルク国際空港
(写真提供：dpa-Zentralbild/DPA/ 共同通信イメージズ)